



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
 （奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



今週の概要

- 今週の感染症情報
- 奈良県インフルエンザ検出状況 **NEW**
- 奈良県ノロウイルス検出状況 **NEW**



（調査週） 平成 23 年 第 3 週 1 月 17 日（月）～ 1 月 23 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	15.64	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	5.23	→～↓	→～↓	↓	→～↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.11	→～↓	↓	→	↓
3	水 痘	1.11	→～↑	→～↓	↑	↑↑
5	伝染性紅斑	0.86	↑	↑	↑	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 569 例で、前週報告の 335 例から増加。上位 5 疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③伝染性紅斑、④水痘、⑤突発性発疹の順。インフルエンザの報告数（408 例）は、ほぼ倍増。伝染性紅斑の報告数（27 例）も、ほぼ倍増。突発性発疹の報告数（11 例）は、増加。感染性胃腸炎の報告数（86 例）は、ほぼ横ばい。水痘の報告数（13 例）も、ほぼ横ばい。なお、インフルエンザの定点報告の内訳は、奈良市 HC 管内；142 例、郡山 HC 管内；266 例だった。奈良市 HC および郡山 HC 両管内基幹定点からの報告はなかった。また、奈良市 HC および郡山 HC 両管内眼科定点からの報告もなかった。（村井 記）

県中部地区概況 報告数は、279 例から 484 例と急増した。上位 5 疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎、水痘、RS ウイルス感染症および咽頭結膜熱・突発性発疹の順であった。インフルエンザは、132 例から 360 例と急増し、中和地区は、定点報告数が 10 超えて 16.36 となり注意報発令の値になった（桜井保健所管内は 14.91、葛城保健所管内は 17.82）。感染性胃腸炎は 69 例と減少した。眼科定点からは、流行性角結膜炎 2 例の報告が桜井保健所より 1 例、葛城保健所より 1 例あった。基幹定点からの報告はなかった。（高木 記）

県南部地区概況 報告数（第 2 週→第 3 週）は 73 例→143 例と倍増。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（28 例→92 例）、②感染性胃腸炎（28 例→28 例）、③A 群溶連菌咽頭炎（8 例→19 例）、④水痘（8 例→3 例）、⑤突発性発疹（1 例→1 例）。（柳生 記）

奈良県インフルエンザ検出状況

平成 22 年度新型インフルエンザ対策事業

平成22年度新型インフルエンザ対策事業
表. A型インフルエンザウイルス検出状況

(採取日別、上段:新型、下段:季節性)

採取週	第52週 まで	第1週 1/3~1/9	第2週 1/10~1/16	第3週 1/17~1/23	総計	
市町村						
北和	奈良市	88		2	90	
	大和郡山市	14			14	
	天理市	4			4	
	天理市	12			12	
	生駒市	2			2	
	生駒市	14			14	
	山添村	7			7	
	山添村			1	1	
	平群町	1			1	
	三郷町	3		1	4	
中和	斑鳩町	1			1	
	斑鳩町	2			2	
	安堵町	1			1	
	橿原市	19			19	
	橿原市	8			8	
	桜井市	8			8	
	宇陀市	3			3	
	宇陀市	1			1	
	川西町	1			1	
	三宅町	1			1	
	高取町	1			1	
	大和高田市	5			5	
	大和高田市	39			39	
	御所市	3			3	
	御所市	5			5	
	香芝市	8			8	
	香芝市	6			6	
葛城市	4			4		
上牧町	3			3		
上牧町	1			1		
王寺町	1			1		
広陵町	5			5		
広陵町	1			1		
河合町	1			1		
河合町	7			7		
南和	五條市	1	1	3	5	
	十津川村			4	4	
	下市町	2			2	
他	下市町	2			2	
	他	5			5	
合計	他	5			5	
	合計	198	1	10	2	211
		109				109

(平成23年1月21日現在)

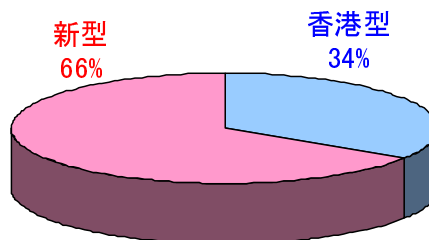


図. 平成22年度インフルエンザウイルスの亜型比率

本格的な流行季に入り、新型インフルエンザの圧倒的優位が顕著となりました。その一方で2011年に入ってからB型インフルエンザウイルスも検出・報告されています(北和および南和地域)。一度罹っていても異なる型のインフルエンザに再び感染する可能性があります。すでに罹った人も手洗い・うがい等の予防対策は継続してください。

☆ 患者渡航歴

	渡航歴あり	なし	不明
新型	11 タイ(1), オーストラリア(1), 台湾(3), 中国(1), インドネシア(1), 韓国(1), 米国(1), イタリア (1)イギリス、フランス(1)	43	157
香港型	12 中国(接触者含む)(8), フィリピン(1), 北欧(1), カナダ(1), 渡航先不明(1)	23	74

(保健環境研究センターウイルスチーム 記)

奈良県ノロウイルス検出状況

平成22年度感染症発生動向調査事業
平成22年度食品の検査による安全確認事業

☆ 集団感染症（検出事例数）

- GI** 4月：小学校（1）
11月：小学校（1），幼稚園（1）
- GII** 5月：小学校（1）
6月：特別養護老人施設（1）
11月：保育園（5），幼稚園（2），他（1）
12月：小学校（1），幼稚園（1），
保育園（1），他（5）
1月：特別養護老人施設（1）

☆ 有症苦情を含む食中毒事例（検出事例数）

- GII** 5月：京都府関連（2）
7月：大阪市関連（2）
11月：他（1）
12月：老人福祉施設（1），他（1）
1月：大阪市関連（1）

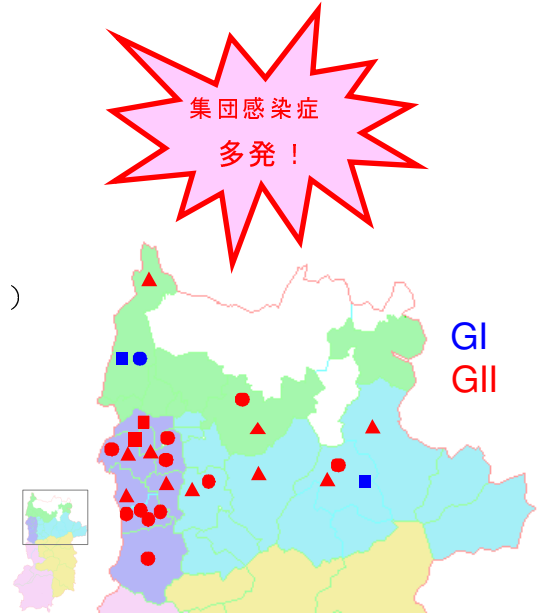


図. ノロウイルス集団発生状況

（食中毒事例を含む）
○：保育所・幼稚園、□：小学校、△：老人保健施設、他

ノロウイルスによる感染性胃腸炎のピークは過ぎたと見られますが、今なお食中毒・集団感染症事例が報告されています。流行が下火になってもノロウイルスは存在していますので油断は禁物です。手洗いや加熱調理の徹底などの予防対策を継続しましょう。

（保健環境研究センターウイルスチーム 記）